



世界が注目!日本の特別活動 “TOKKATSU”

2月

教務主任 本田 一枝

日本の学校では、国語や算数などの教科の他に、「外国語活動」「総合的な学習の時間（金沢小学校では金沢タイムという名称）」、「特別の教科 道徳」、「特別活動」が学習指導要領に位置付けられています。もう少し「特別活動」について説明すると、特別活動には、【学級活動】【児童会活動】【クラブ活動】【学校行事】の4つの活動があります。それぞれの活動には内容が決められています。例えば、【学級活動】の内容は、学校や学級の課題を見出し、解決するために話し合うこと、清掃などの当番活動や係活動など役割を果たすことなどです。

協調性や課題を解決していく力などを育成することを目的にしているこの「特別活動」（通称特活）が今、“TOKKATSU”として、世界に注目されているそうです。

日本独自の“TOKKATSU”が取り入れられているのはインド、マレーシア、モンゴル、エジプト。中でも、エジプトでは国を挙げて導入が進められているそうです。

エジプトでは、長年続いた独裁体制が倒れた後、政治や社会は混乱しました。協調して課題を解決できる人づくりができないか、来日した大統領が注目したのは日本式教育でした。その後、日本とエジプトは教育パートナーシップを結び、エジプトの教育者たちが日本の学校を訪れ、特別活動の研修に励んだそうです。

これまでエジプトでは、学校の掃除は業者が行っていましたが、子ども主体で取り組むようになり、掃除をする目的、協力することや掃除の方法を子どもたち自身が考えるようになりました。また、子どもが主導権を握る学級会はエジプトでは画期的だったそうです。“TOKKATSU”の教育を受けて、以前は何でも母親に頼っていた子どもが、自分で考えて行動するようになりました。家庭で何か問題があれば大人だけで解決していましたが、今は解決するためにアイデアをたくさん出してくれる子どもが話合いに欠かせない存在になっているそうです。エジプトの学校の校長先生は、「こういう子どもたちが将来リーダーになれば社会は完全に変わります。エジプト全体が学級会みたいになります。」と語っています。

金沢小学校でも、特別活動は人気を博しているといえます。学級では、毎月代表委員会の議題について話し合います。大人が想定していないことに気付いて出される意見にはったり、感心したりすることが多くあります。児童会では、クラスで頑張ったことや楽しかったことを毎月ダイヤのかけらの形の紙に書き、貼り合わせています。3月に大きな金小ダイヤが完成するのをみんなが楽しみにしています。さらに、1月末から「金小かるたリレー」も始まりました。いろいろな学年、クラスの人とカルタをしてつながろうという今年度初めての取組です。これらの活動は、子どもが主体的に考え、運営していきます。

エジプトでも、日本でも、“TOKKATSU”は子ども達を輝かせています。